

SARS-CoV-2 遺伝子検査における ID NOW の有用性

—ID NOW の迅速性を最大限活かす取り組み—

◎延廣 奈々子¹⁾、河内 誠¹⁾、飯村 将樹¹⁾、宮澤 翔吾¹⁾、及川 加奈¹⁾、堀井 洋利¹⁾、舟橋 恵二¹⁾、西村 直子¹⁾
JA 愛知厚生連 江南厚生病院 臨床検査室¹⁾

【はじめに】COVID-19 感染症の蔓延に伴い迅速な遺伝子検査の需要が高まっている。ID NOW (Abbott) は操作が簡便で TAT が約 13 分と、他の遺伝子検査と比較して迅速性に傑出した検査機器である。また、一度の検体採取で再検の実施が可能な点も優れている。しかしながら、コロナ禍初期の論文にはその性能を疑問視するものも散見される。今回、SARS-CoV-2 遺伝子検査における ID NOW の有用性について検討したので報告する。

【対象と方法】2021 年 2 月～10 月の 9 か月間に、当院で ID NOW にて検査を実施した 2275 件のうち、初回測定陽性の 30 件を対象とした。これらを他の遺伝子検査機器ならびに ID NOW を用いて再検し、ID NOW 初回測定、他検査、ID NOW 再検の三者で結果を比較検討した。

【結果】ID NOW 初回測定陽性の 30 件を他検査にて再検し、同様に陽性となったのは 25 件 (83.3%)、陰性となり結果が乖離したのは 5 件 (16.7%) であった。両者陽性 25 件中 13 件及び結果乖離全 5 件の計 18 件について ID NOW にて再検を実施し、両者陽性全 13 件は再検でも陽性、結果乖離

全 5 件は再検でも陰性と、ID NOW 再検結果は他検査結果と 100%一致した。ID NOW の初回測定と再検の陽性一致率は 72.2%であった。また、臨床の最終診断を真とすると、ID NOW 初回測定結果のみで報告した場合の偽陽性率は 16.7%、再検を実施して結果一致後に報告した場合の偽陽性率は 0%であった。

【考察】ID NOW は他の遺伝子検査より簡便・迅速で中小病院や当直帯への導入も容易であるが、偽陽性率は 16.7%と高かった。しかし、再検を適切に実施して結果の一致を確認することで偽陽性率を大幅に引き下げることが可能であった。本検討より、当院では、初回陽性時は即座に同じ抽出液を用いて再検を実施し、結果一致時は陽性と報告、結果乖離時は他検査でも再検を行うこととした。ID NOW における再検の実施は、再採取が不要であり TAT も 30 分以内であるため患者や臨床への影響は抑えられた。

【結語】ID NOW の偽陽性率は再検の実施により大幅に引き下げることが可能であり、ID NOW は迅速な SARS-CoV-2 遺伝子検査に貢献し得る。 連絡先：0587-51-3333